

天幕 〈ゲル〉

モンゴル—草原のかおりをたのしむ

D0112

ウランバートル/モンゴル



参照資料

『暮らしがわかるアジア読本 —モンゴル』 p.12～p.16

『草原の遊牧文明』 p.44

季刊民族学

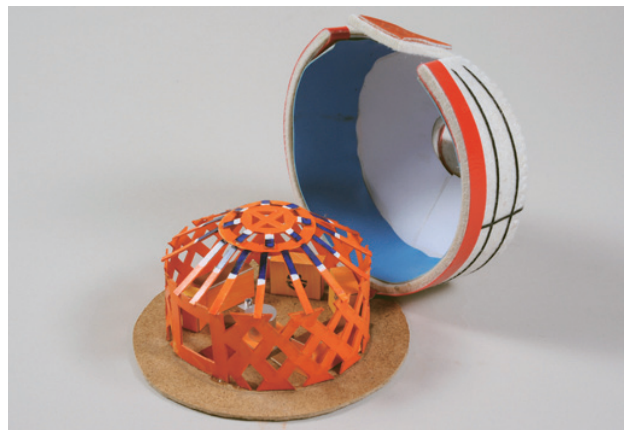
No.3 p.76～p.77

No.27 p.72

No.28 p.96～p.99

No.69 p.54～p.57

Г э р



遊牧民の住居をゲルといいます。遊牧民は牧草地をもとめて1年に4回ほど引越しをするので、解体と組み立てが自由のできるゲルが重宝されています。気温の上がる夏には、ゲルを覆うフェルトカバーの裾をあげて風通しを良くし、寒さの厳しい冬にはフェルトカバーを二重にして熱を逃がさないようにしています。そのため、一年を通じてゲルの中は快適な環境に保たれています。ゲルの天井にある天窓からは、太陽の光が差し込むため中は明るく、雨の時には天窓にカバーをかけて雨が降りこむのを防ぎます。

([参考文献] 吉田忠正著・小長谷有紀監修 2007『体験取材!世界の国ぐに—13 モンゴル』ポプラ社)